

第67回景況アンケート調査 結果報告書

(令和7年6月16日作成)

足利商工会議所

足利市通3丁目2757
TEL0284-21-1354 Fax0284-21-6294

《令和 7年 4月～ 6月期》実 績
《令和 7年 7月～ 9月期》見通し

調 査 要 領

1. 調査目的

本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、今後の経営支援や関係機関への施策、要望等の参考に資することを目的とする。

2. 調査期間

令和7年4月25日(金)～6月6日(金)

3. 調査対象企業

足利商工会議所議員事業所、足利地区雇用協会事業所など市内主要企業230社
(うち回答企業数168社：回答率73.0%)

4. 回答企業数

製造業	57 社
繊維工業	14 社
建設業・設備工事業	31 社
卸売業・小売業	30 社
飲食業・サービス業	36 社
計	168 社

5. 景況指数DIについて

分析方法[景況動向指数(DI)による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で、上限はプラス100・マイナス100となり、プラスは景況の好転(増加)、マイナスは景況の悪化(減少)をあらわしている。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要になっている。

DI方式は、
$$\frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100$$
により算出

x：「好転」「増加」「上昇」等の回答企業数

y：「普通」「適正」の回答企業数

z：「悪化」「減少」「下落」等の回答企業数

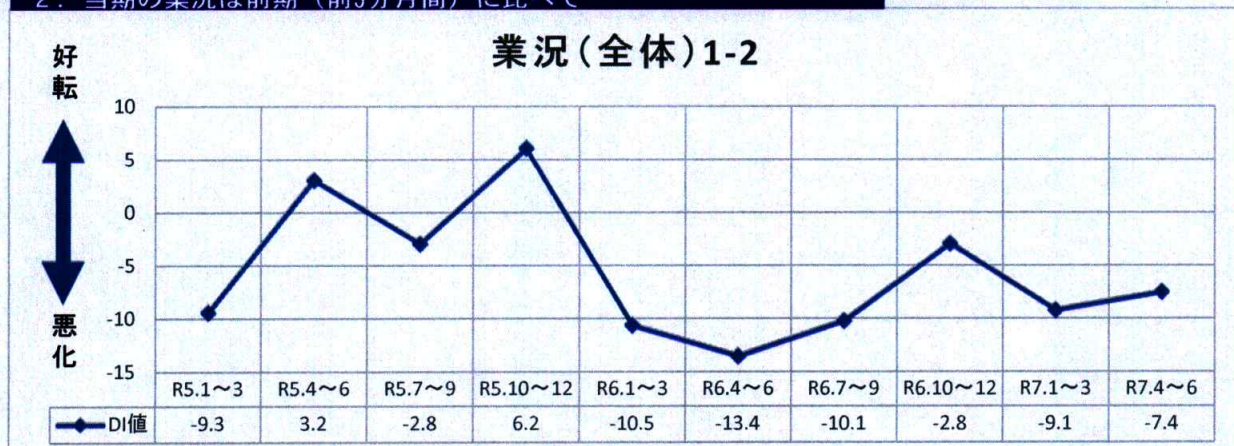
1. 当期（令和7年4月～6月）の景況について

1. 当期の業況は前年同期（1年前）に比べて



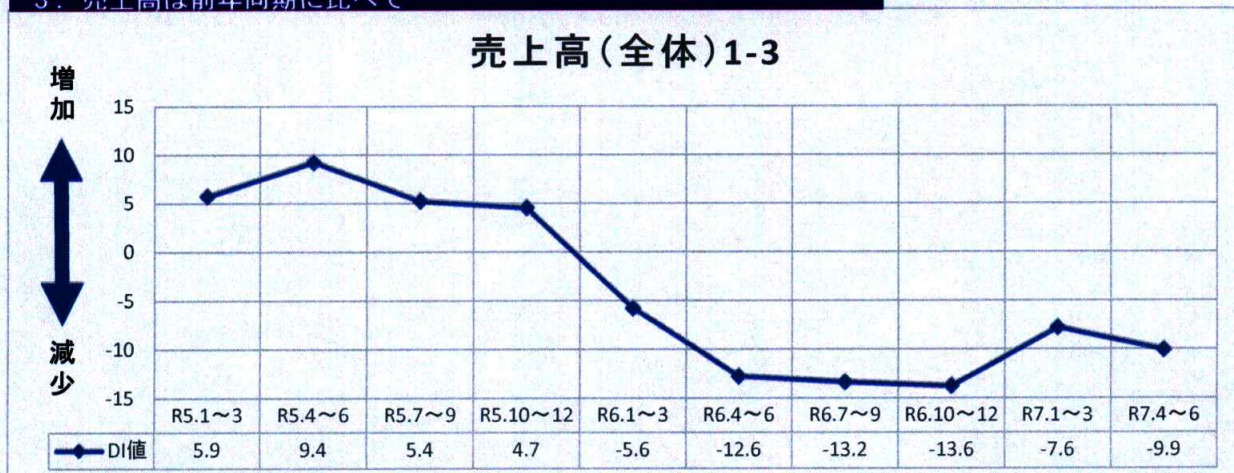
全体：好転17%、不変52%、悪化31% 製造業：好転25%、不変39%、悪化36%
 繊維工業：好転0%、不変50%、悪化50% 建設業・設備工事業：好転16%、不変61%、悪化23%
 卸・小売業：好転13%、不変50%、悪化37% サービス業：好転17%、不変66%、悪化17%

2. 当期の業況は前期（前3ヵ月間）に比べて



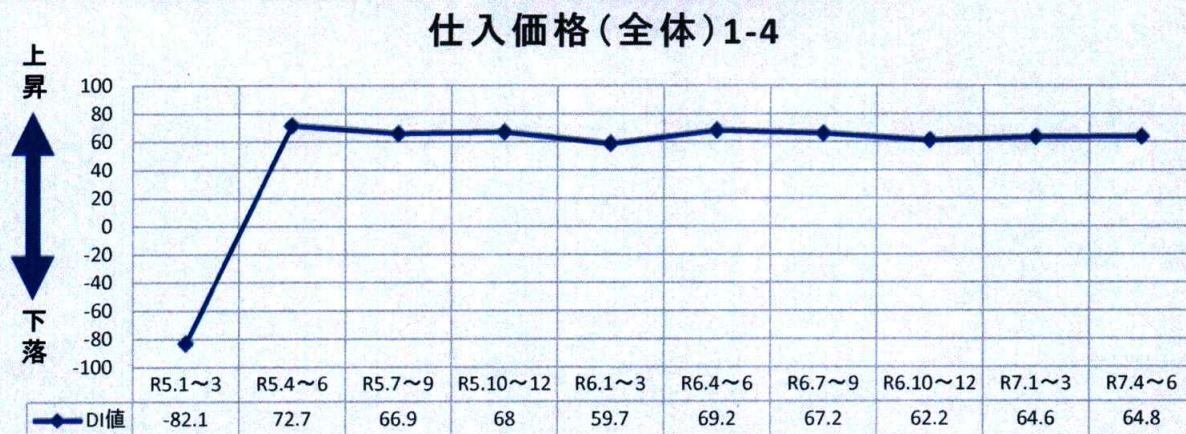
全体：好転15%、不変60%、悪化25% 製造業：好転21%、不変54%、悪化25%
 繊維工業：好転7%、不変71%、悪化22% 建設業・設備工事業：好転6%、不変74%、悪化20%
 卸・小売業：好転13%、不変50%、悪化37% サービス業：好転19%、不変62%、悪化19%

3. 売上高は前年同期に比べて



全体：増加23%、不変42%、減少35% 製造業：増加26%、不変32%、減少42%
 繊維工業：増加7%、不変43%、減少50% 建設業・設備工事業：増加19%、不変55%、減少26%
 卸・小売業：増加23%、不変43%、減少34% サービス業：増加28%、不変47%、減少25%

4. 仕入価格（原材料）は前年同期に比べて



全体: 上昇73%、不変25%、下落2%

繊維工業: 上昇71%、不変29%、下落0%

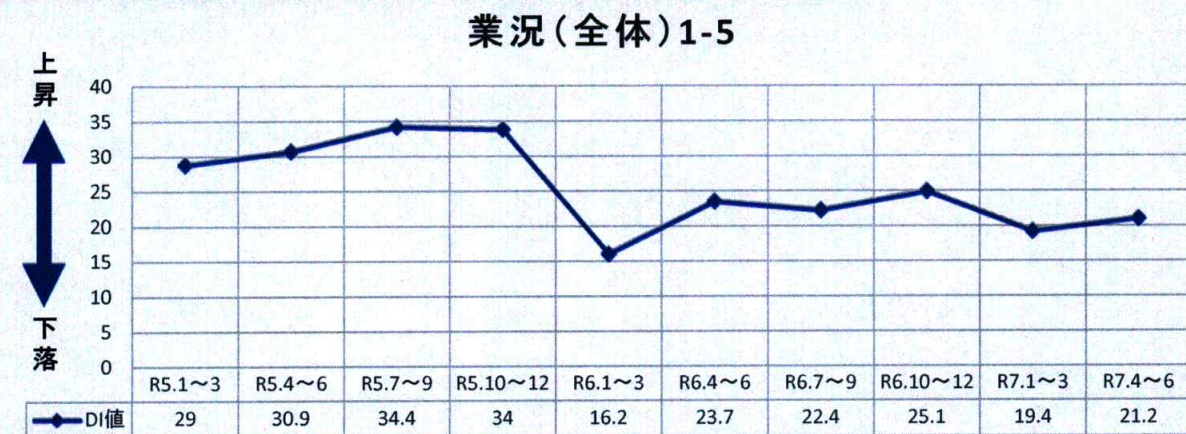
卸・小売業: 上昇87%、不変10%、下落3%

製造業: 上昇63%、不変33%、下落4%

建設業・設備工事業: 上昇74%、不変26%、下落0%

サービス業: 上昇75%、不変22%、下落3%

5. 受注・販売価格は前年同期に比べて



全体: 上昇36%、不変54%、下落10%

繊維工業: 上昇14%、不変64%、下落22%

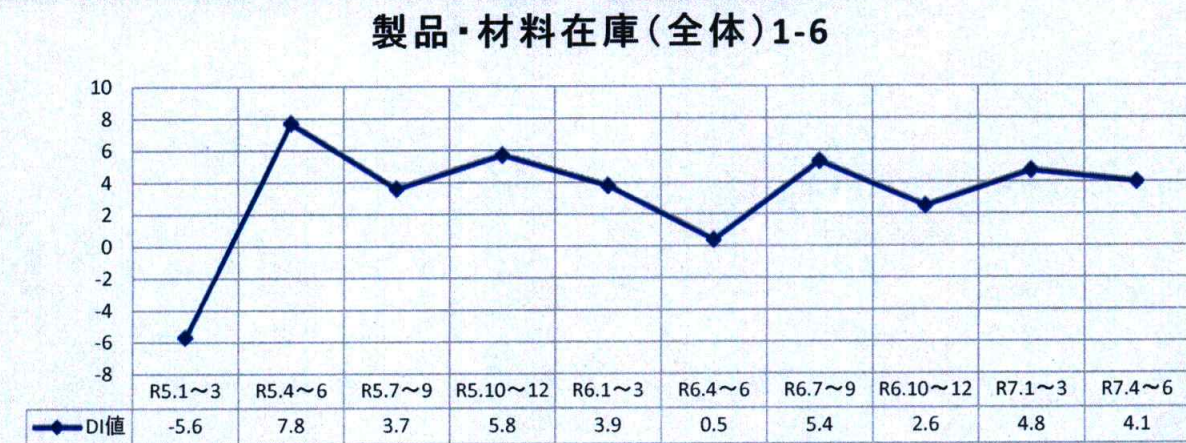
卸・小売業: 上昇47%、不変37%、下落16%

製造業: 上昇40%、不変51%、下落9%

建設業・設備工事業: 上昇26%、不変71%、下落3%

サービス業: 上昇36%、不変53%、下落11%

6. 当期の製品（材料）在庫は前年同期に比べて



全体: 過多7%、適正89%、不足4%

繊維工業: 過多14%、適正79%、不足7%

卸・小売業: 過多20%、適正77%、不足3%

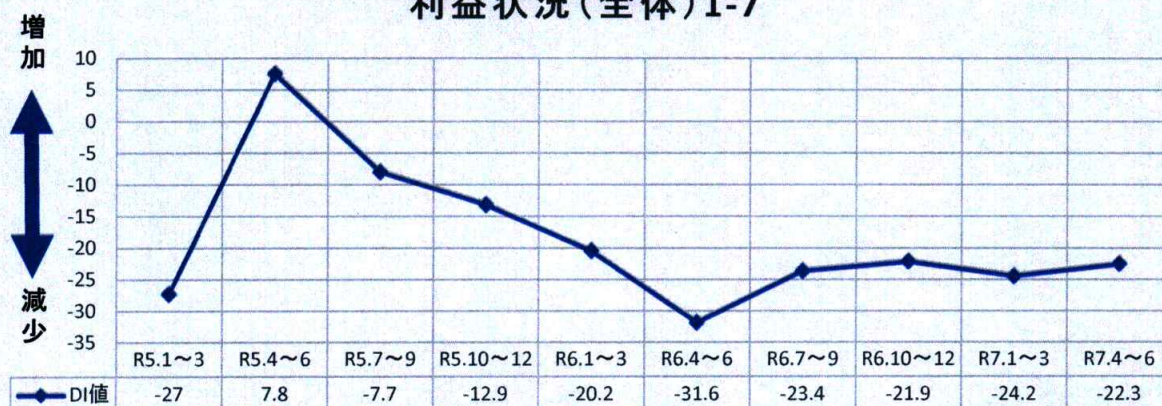
製造業: 過多7%、適正89%、不足4%

建設業・設備工事業: 過多6%、適正90%、不足4%

サービス業: 過多0%、適正100%、不足0%

7. 利益状況は前年同期に比べて

利益状況(全体)1-7



全体: 増加14%、不変43%、減少43%

製造業: 増加26%、不変28%、減少46%

繊維工業: 増加7%、不変36%、減少57%

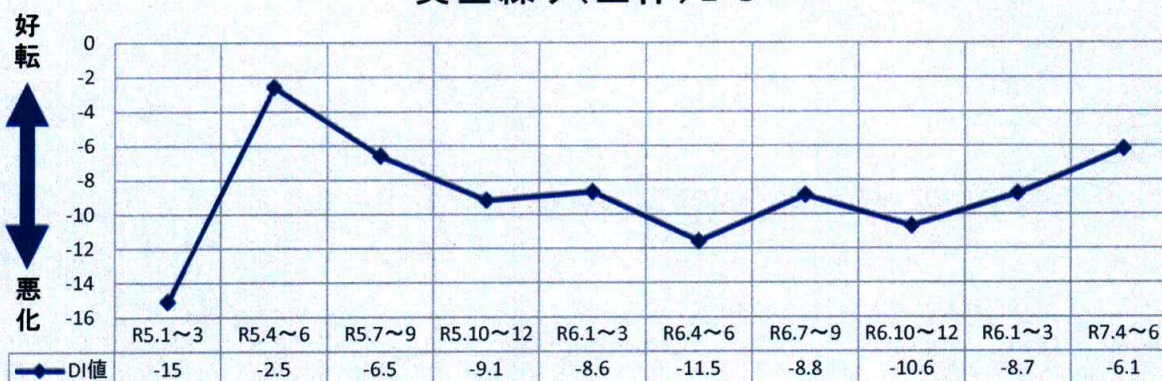
建設業・設備工事業: 増加6%、不変61%、減少33%

卸・小売業: 増加13%、不変40%、減少47%

サービス業: 増加11%、不変58%、減少31%

8. 資金繰りは前年同期に比べて

資金繰り(全体)1-8



全体: 好転7%、不変78%、悪化15%

製造業: 好転11%、不変74%、悪化15%

繊維工業: 好転7%、不変64%、悪化29%

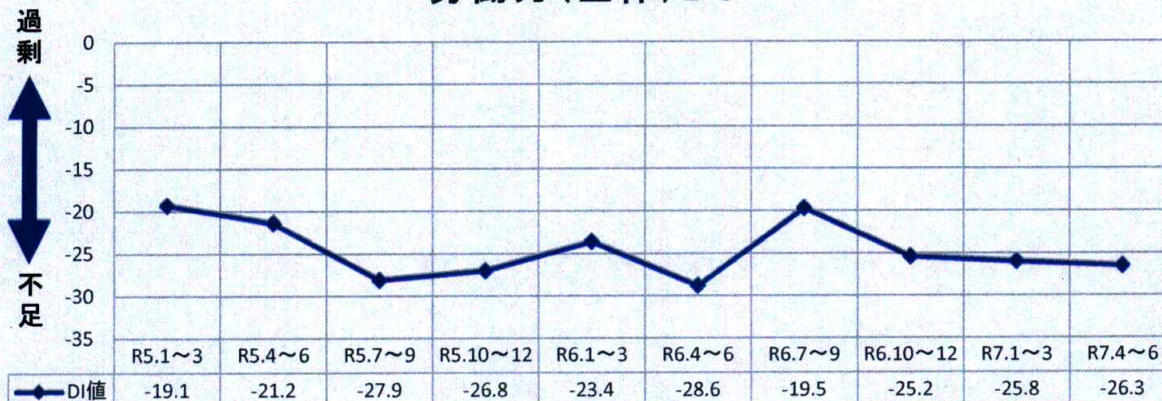
建設業・設備工事業: 好転0%、不変94%、悪化6%

卸・小売業: 好転13%、不変70%、悪化17%

サービス業: 好転3%、不変83%、悪化14%

9. 労働力は前年同期に比べて

労働力(全体)1-9



全体: 過剰5%、適正59%、不足36%

製造業: 過剰9%、適正63%、不足28%

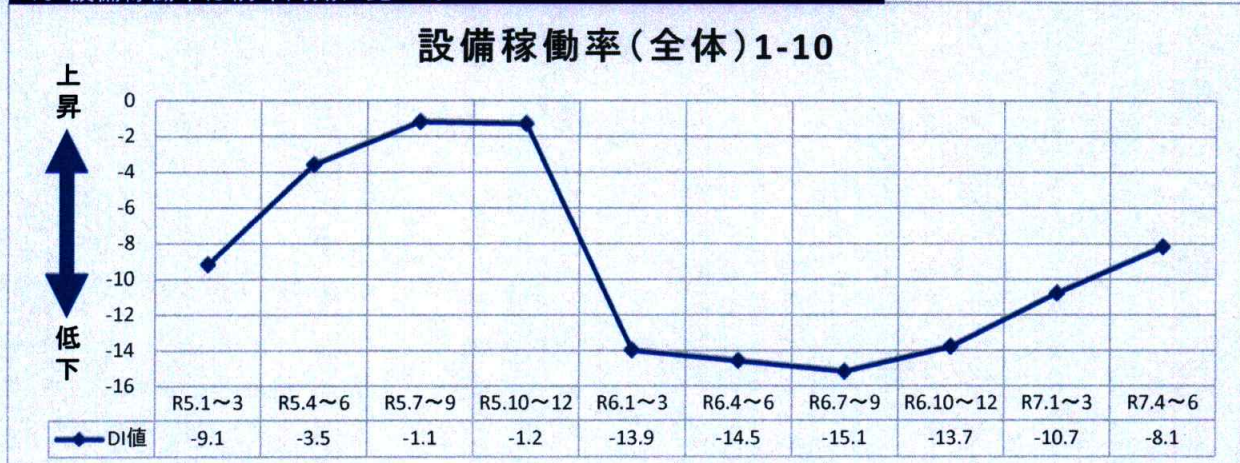
繊維工業: 過剰0%、適正57%、不足43%

建設業・設備工事業: 過剰0%、適正55%、不足45%

卸・小売業: 過剰10%、適正60%、不足30%

サービス業: 過剰0%、適正56%、不足44%

10. 設備稼働率は前年同期に比べて



全体: 上昇8%、不変73%、低下19%

製造業: 上昇14%、不変58%、低下28%

繊維工業: 上昇0%、不変64%、低下36%

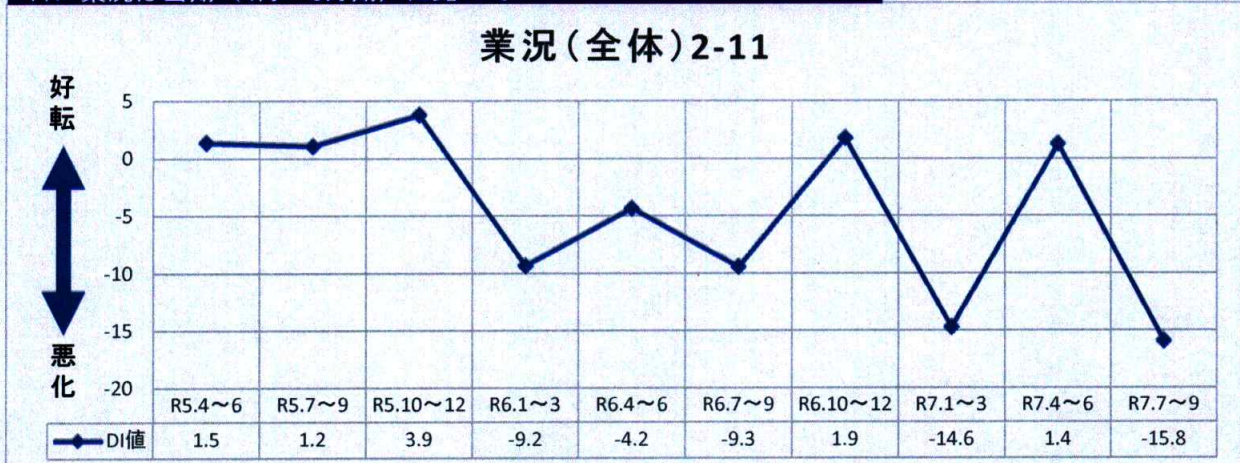
建設業・設備工事業: 上昇6%、不変94%、低下0%

卸・小売業: 上昇7%、不変77%、低下16%

サービス業: 上昇6%、不変81%、低下13%

II. 今後3ヵ月間(令和7年7月~9月)の推移の予想について

11. 業況は当期(4月~6月期)に比べて



全体: 好転11%、不変60%、悪化29%

製造業: 好転11%、不変54%、悪化35%

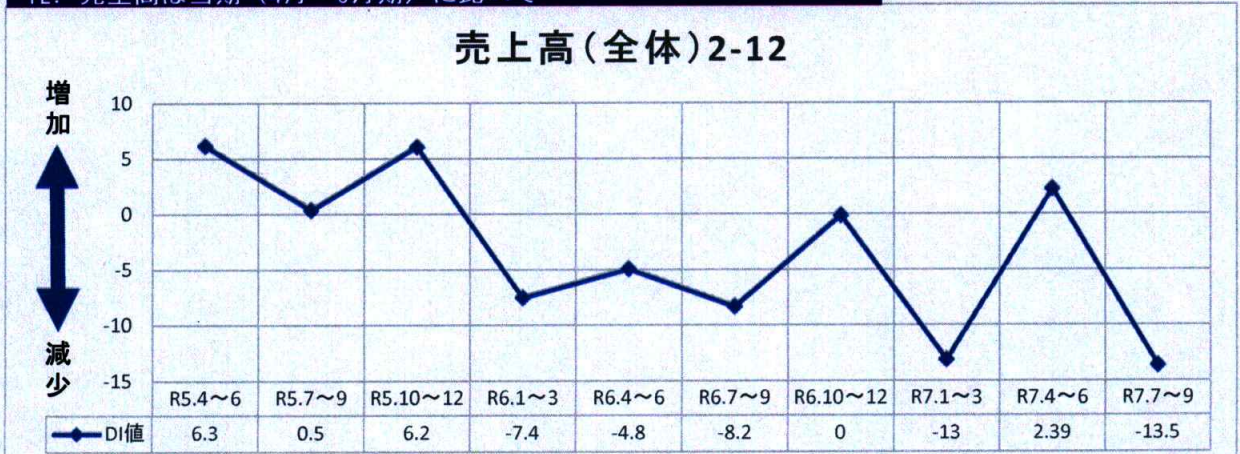
繊維工業: 好転14%、不変72%、悪化14%

建設業・設備工事業: 好転10%、不変71%、悪化19%

卸・小売業: 好転10%、不変43%、悪化47%

サービス業: 好転11%、不変67%、悪化22%

12. 売上高は当期(4月~6月期)に比べて



全体: 増加14%、不変57%、減少29%

製造業: 増加12%、不変54%、減少34%

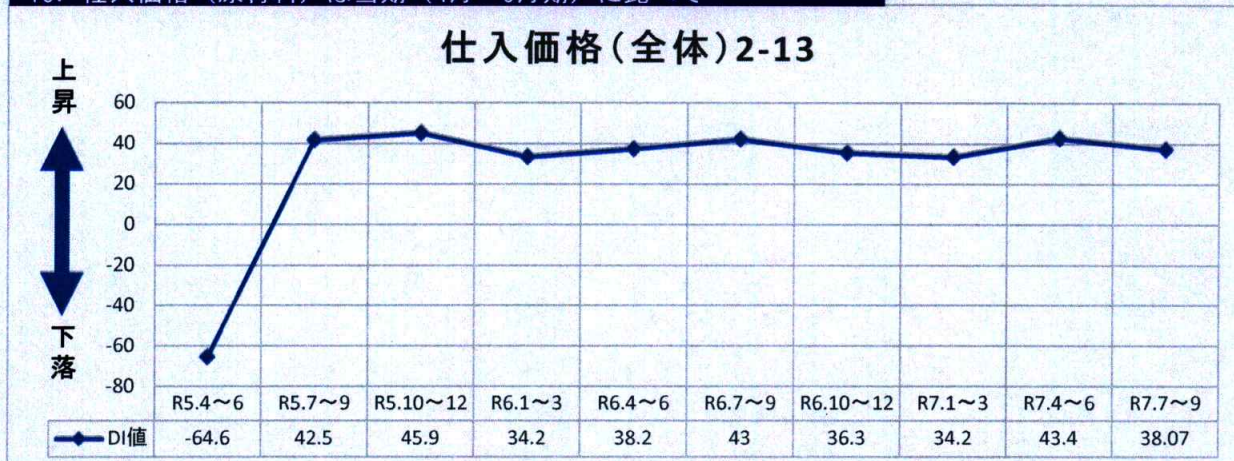
繊維工業: 増加21%、不変58%、減少21%

建設業・設備工事業: 増加13%、不変65%、減少22%

卸・小売業: 増加10%、不変47%、減少43%

サービス業: 増加17%、不変61%、減少22%

13. 仕入価格（原材料）は当期（4月～6月期）に比べて



全体：上昇46%、不変52%、下落2%

繊維工業：上昇57%、不変43%、下落0%

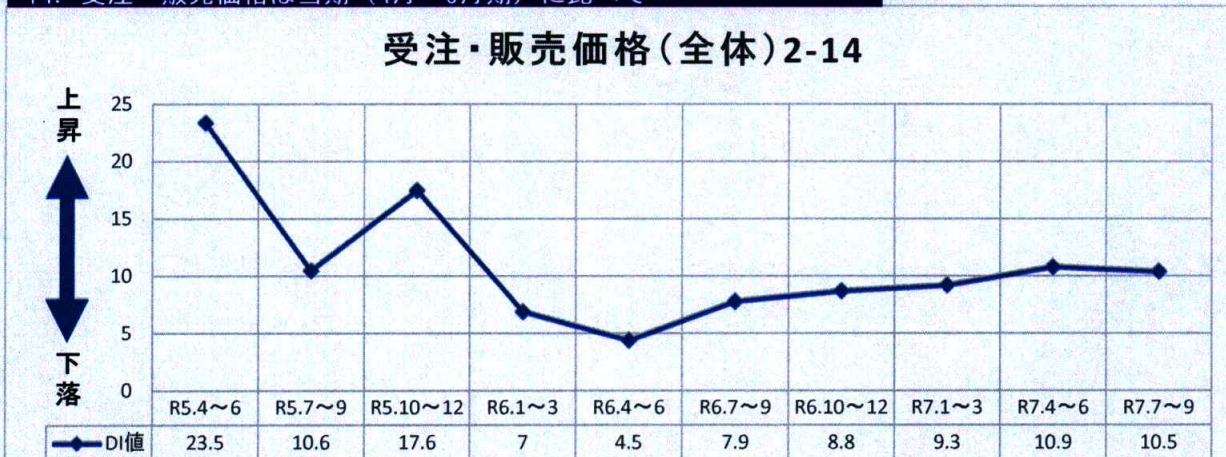
卸・小売業：上昇73%、不変23%、下落4%

製造業：上昇19%、不変77%、下落4%

建設業・設備工事業：上昇61%、不変39%、下落0%

サービス業：上昇50%、不変50%、下落0%

14. 受注・販売価格は当期（4月～6月期）に比べて



全体：上昇20%、不変74%、下落6%

繊維工業：上昇21%、不変64%、下落15%

卸・小売業：上昇40%、不変47%、下落13%

製造業：上昇11%、不変84%、下落5%

建設業・設備工事業：上昇16%、不変81%、下落3%

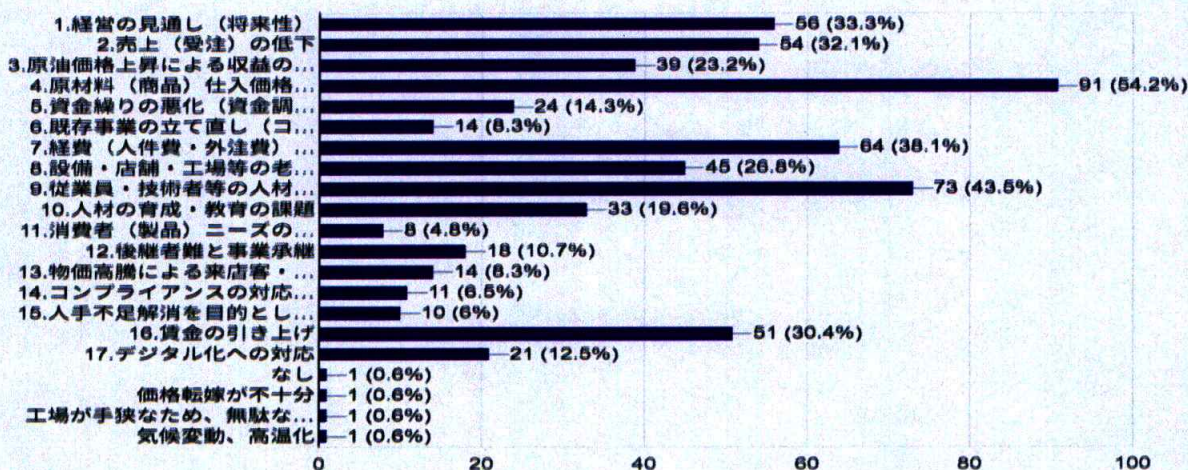
サービス業：上昇19%、不変78%、下落3%

III. 当期直面している経営上の問題点

15. 当期（4月～6月）直面している経営上の問題点について

3-1 当期（4月～6月）直面している経営上の問題点について

168 件の回答



16. アメリカの関税引き上げの影響は、貴社の業績にどの程度影響しますか

●トランプ大統領が「相互関税」の導入を発表しました。益々、先行きの不透明感が強くなる中、管内の企業が受ける影響について調査しました。

全体では、「大いにプラスの影響」や「少しプラスの影響」と回答したのは、1社のみでした。

一方、「大いにマイナスの影響」は24社(14%)、「少しマイナスの影響」は70社(42%)と、大小いずれかの影響があると回答したのは全体の半数以上の94社(56%)に上り、当地の産業にも影響が見られる結果となりました。

	製造業	繊維工業	建設業・設備工事業	卸・小売業	サービス業	全体
大いにプラスの影響	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
少しプラスの影響	1(2%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(1%)
大いにマイナスの影響	12(21%)	3(21%)	3(10%)	4(13%)	2(6%)	24(14%)
少しマイナスの影響	24(42%)	3(21%)	10(32%)	17(57%)	16(44%)	70(42%)
影響は無い	14(25%)	6(43%)	11(35%)	6(20%)	16(44%)	53(32%)
不明・回答無	6(10%)	2(15%)	7(23%)	3(10%)	2(6%)	20(11%)
	57(34%)	14(8%)	31(18%)	30(18%)	36(22%)	合計 168(100%)

＜概況＞

【令和7年4月～6月期 実績】

- 全体の業況におけるDI指数は-11.6ポイントで、前年同期-12.2ポイント(1年前)から比較し0.6ポイントを戻した。
- 当期の業況-7.4ポイントは前期-9.1ポイント(前3ヶ月)と比較して1.7ポイントが回復した。
- 当期の売上高-9.9ポイントは前年同期-12.6ポイント(1年前)と比較し2.7ポイントが増加した。

【令和7年7月～9月期 見通し】

- 全体の業況におけるDI指数は-15.8ポイント(前3ヵ月比17.2ポイント)と大きくポイントを下げ、トランプ関税等の影響から先行き不透明な見通しの結果となった。

【直面している経営の問題点】

- 2年以上続いている「原材料(商品)仕入価格の上昇」を問題点として挙げる意見が最も多く、そのほか「従業員、技術者等の人材」と続いた。その他、人件費や外注費の増加を訴える声も多く、依然厳しい経営環境が伺えた。

【トランプ大統領の相互関税の対応策のほか、全体に関するコメント】

- ・販売先の影響、動向に注視していく。(卸・小売業)
- ・相互関税については情報を収集し、在庫調整を含め当面できる事を行うと同時に他業種開拓等中期視点の開発・改革を進める。(卸・小売業)
- ・経済安全保障、国防的な意味合いで必要ならば日本も同様に行うべきだと思う。今は、長期的に考え、国政を見守る段階。(建設業・設備工事業)
- ・ニューヨークからご注文いただき、通関に支障がありました。(卸・小売業)
- ・コロナ回復後に、物価高に金利の上昇、トランプ関税の経済不透明、働き方改革での働く意識の低下…どうしたら賃上げなどできるのか!!(製造業)
- ・中期的に注意深くウオッチして、内需型の営業方針に注力が必要と思われます。(製造業)
- ・賃金を引き上げれば物価が落ち着くわけない!(製造業)
- ・政策が二転三転するので、対策(計画)を立てようがない。(製造業)
- ・情報や決定事項が流動的で不安になります。(製造業)
- ・弊社の得意先は販売の6割を対米輸出に依存している。今後の動きを注視したい。(製造業)
- ・自動車関連の仕事が多い。輸出の影響の予測がつかないので対策が難しい。(製造業)
- ・国内向けの仕事ばかりなので、トランプ関税の悪い影響はない。大阪万博が半年間あるのもっと個人消費が上向いてほしい。(製造業)
- ・直接的ではないが間接的に影響があり。また、言っていることもコロコロ変わるので、取引先も警戒して様子をみている状況もあると思う。(繊維工業)